

***** 2005.3.23 発行 *****

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

編集・発行：日本マラウイ協会

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 青年海外協力協会気付

Tel. 03-3447-2921 Fax 03-5798-4269

Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>

E-mail japan-malawi@mc.newweb.ne.jp

【マラウイ共和国】

面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)

人口：1131 万人 (2000 年推計)、首都：リロングウェ

独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語

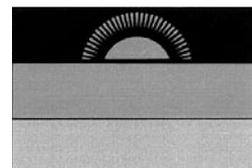
政体：共和制、大統領：ビング・ワ・ムタリカ

為替レート：US\$1 = MK 106.26 (3 月 5 日現在)

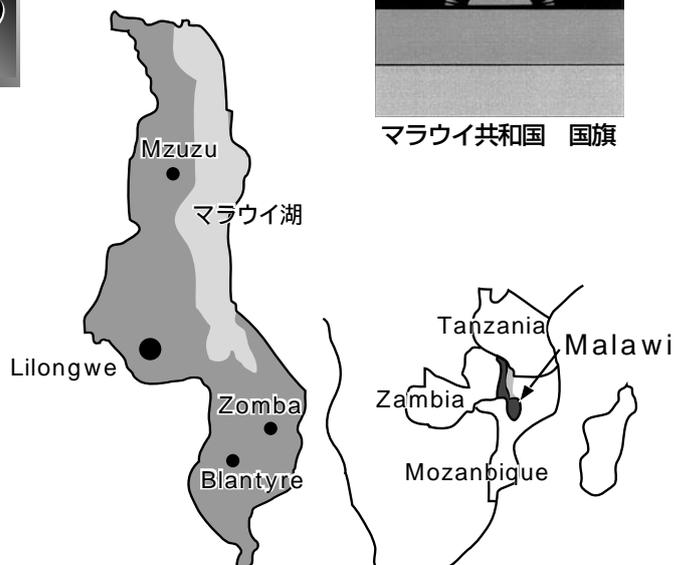
MK 1 = 0.98598 円 (3 月 5 日現在)

【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。会員数：265 人 (3 月 1 日現在)



マラウイ共和国 国旗



トピックス 青年海外協力協会 (JOCA) 設立 20 周年記念海外事業が始まる

文責：JOCA 丹羽克介

JOCA が設立 20 周年記念として海外事業を実施することになりました。対象国は、1971 年以來、青年海外協力隊 (JOCV) 派遣 34 年の歴史を持ち、これまで 1240 余名 (2004 年 12 月現在、全派遣 2 位) の協力隊員を受け入れてきたマラウイ共和国に決定されました。これまで実施した 2 度の現地調査結果を踏まえて、常に現地の人たちの顔を思い浮かべながら、協議を繰り返し実施案を練ってきました。そしてついに、本年 4 月に本事業が立ち上がることになりました。協力隊 OB・OG としての視点と想いを盛り込んだ内容のプロジェクトとなっています。

■プロジェクト概要

1. プロジェクト名：JOCA マラウイ農民自立支援プロジェクト～海外版協力隊創設～
2. プロジェクト期間：2005 年 4 月～2008 年 3 月 (3 年間)
3. 対象地域：マラウイ国 ムジンバ島
4. 対象者：小規模農民
5. プロジェクト目標：グループ活動を活性化させる農民のリーダーが育つこと

■プロジェクト内容

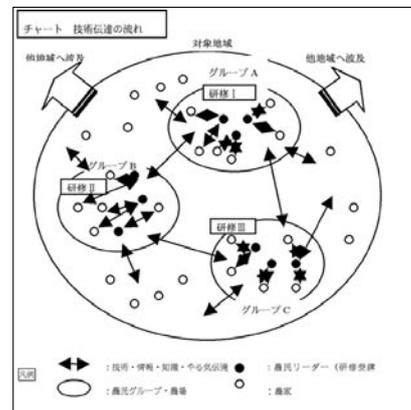
マラウイでは、コミュニティの生活向上や現金収入活動などを目的に多数の農民グループが形成されていますが、実質上活動しているグループは少ないのが現状です。しかし、強いリーダーシップをもった農民リーダーがいるグループは効果的な活動ができていますので、JOCA のプロジェクトでは、地域活性化の核となるリーダーの育成に焦点をあてた内容としていく予定です。

具体的には、各グループから複数のリーダーを集め、グループ運営や野菜栽培・家畜飼育・小規模灌漑・マーケティングなど、現地のニーズに即した研修を実施していきます。また、研修場所には実際の農民グループの農場を使用し、実践的かつ現場に適した研修となるよう努めます。このように既存資源 (ヒト・モノ・システム・施設・資材等) を有効利用し、外部からの投入を必要最小限に抑えることが、現地への過重な負担を避け、持続性を高めると考えます。また研修講師には、農業省スタッフを始め、元協力隊カウンターパートなどを活用していく予定です。つまり、このプロジェクトは、協力隊

OB とカウンターパート OB が再び協働し、任国の発展に貢献するという JOCA らしいものとなっているのです。

研修を受けた農民リーダー達が、新たに取得した技術やノウハウを自ら実践し成果を挙げることはもちろんのこと、今度は自らが伝達者としての役目を担ってグループ活動を活性化させ地域の発展に貢献していく、いわば海外版協力隊とも言うべき「協力隊スピリット」を醸成することを目指します。

なお、対象グループ選定や研修の具体的内容については、今後詳細な調査を実施し検討していきますが、マラウイ側のオーナーシップを尊重しつつ、JICA や関係機関とも連携しながらプロジェクトを実施していく予定です。



▲技術伝達の流れ



▲活動イメージ

私自身 OB として再び第 2 の故郷といえるマラウイに関わることに関心し、当プロジェクトがマラウイの人たちの歩幅と足並みに合わせ、彼らがゆっくりと、そして着実に前進していけるようなものになるよう協力支援していきたいと考えています。今後、このプロジェクトの進行状況を随時報告させて頂くと共に、現地での効果的効率的な実施にむけ、マラウイ国内に潜在する有為の人材、人的ネットワークを再活用する上でも、日本マラウイ協会の皆様にはご意見や情報提供のご協力をお願いしたいと思います。

レポート 第 3 回マラウイ ウォームハート プロジェクト 中間報告

前号でレポートした第 3 回マラウイウォームハート プロジェクト(チムワリーラセカンダリースクール図書館蔵書数増加計画)の実施者である JOCV 平成 14 年度 3 次隊鈴木とも子隊員(理数科教師)から中間報告が届きましたので掲載します。



平成 17 年 1 月 8 日

昨年 7 月にプロジェクトが承認された後の進捗状況及び今後の計画について報告いたします。

《承認後の進捗状況》

[平成 16 年]

8 月初旬	図書購入等に係る支援金の入金の確認をしました。配属先学校に申請が承認された旨を連絡しました。
8 月中旬	インターネットにより図書(希望図書の一部)を注文しました。ネットショップ先: Amazon.com 注文図書: 図鑑、小説文学、伝記、辞書等 ※以上の図書はインターネットで購入したほうが安価なため、それ以外の図書(アフリカ文学、教科書)については、マラウイ国内本屋で見積りをとり直し、インターネット購入の図書が届き次第購入予定
9 月下旬	インターネットで注文した図書の半分以上が在庫がなく、すぐに発送できない旨の連絡がありました。
11 月上旬	インターネットで注文した図書を発送した旨の連絡がありました。
12 月上旬	JICA マラウイ事務所からインターネットで注文した図書が届いた旨の連絡がありました。
12 月中旬	配属先に首都リロングウェから図書を運搬するための車両を準備していただくようお願いしました。しかし、クリスマス休暇と年末に入ってしまうため、年明けに調整することになりました。



▲ セカンダリースクールの校門

[平成 17 年]

1 月上旬	残りの図書を本屋に注文しました。希望図書は全て揃っていることを確認しました。 1 月 18 日に車両で図書を運搬出来ることを確認しました。
1 月 18 日	受取り及び支払いを行い、配属先に運搬する予定です。

《運搬後の計画》

1 月 19 日	蔵書リストの作成。(学校司書と共に既存の蔵書リストに書名、著者名等を書き足す作業を行う)
1 月 24 日	配属先の朝礼において、授与式を行います。図書館で貸出開始します。

2 月初旬	買出しリストから、どのような本がよく読まれているかなど、貸出に関する統計を開始します。また、読書感想文のコンテストを行います。
2 月下旬	読書に関するアンケートを行います。日本マラウイ協会に報告書を提出します。(事業報告、会計報告、結果報告等)
3 月	

投稿 国際協力フェスティバル 2004 に参加して

JOCV OB 平成 10 年度 3 次隊 電気機器 宇佐美雄二

日本マラウイ協会とはどんな活動をしているの?東京には行けるが、マラウイには行きたいが行けない。マラウイ時代にお世話になった方々に直接会ってお礼を言いたい。そんな気持ちが私を、東京・日比谷公園に連れてきた。

2004 年 10 月 2、3 日の両日に行われた国際協力フェスティバルに参加してきました。青年海外協力隊の OB / OG、JICA 関連団体、各種 NGO、NPO、国連関係のブースがこれほどもあるのかと思うぐらい軒を並べ公園を埋めていました。



▲ マラウイ協会テントの様子

今回は、来場者が各ブースをスタンプラリー形式で回り、そのスタンプに応じて景品を Get するというユニークな趣向でした。日本マラウイ協会は来場者にマラウイ式の挨拶(握手)をしてもらいスタンプを押すというもので、マラウイの文化の一端を見てもらうには良い方法でした。小・中学生には特に好評でした。(もしかして今頃、東京の学校では、マラウイ式握手禁止令が出ていること!?マチガイナイ!)

マラウイ協会ブースでは、民芸品、国情紹介誌、チェワ語辞典、マラウイ旅行ガイドブック等の販売を行い好評を得ました。マラウイを代表する紅茶、チョンベティーを購入希望するお客さんもおり、次回以降、商品販売の復活が望まれるところです。

来場者の中には、元 JICA 関係者は勿論、旅行で訪れ私よりマラウイの細部に詳しい方、仕事の関係で 30 年以上前に滞在されていた方でプラントイヤの病院に入院、お世話になったと思い出を語ってくれた方、子供たちの笑顔が素敵と写真を見入る大学生、丁度前日にマラウイから帰国したばかりという現隊員のお母さん、そして次期以降の隊次で訓練に加わる候補生の方々、本当にいろいろな方と出会えたことが最大の収穫

でした。

まだ、参加したことのないマラウイ関係者の方々は、是非参加されてはいかがでしょう。懐かしい音楽に身をゆだね、自然とリズムに乗れば、もうそこはマラウイのボトルストアに早変わりしますよ。

最後に、今回、遠く北海道から参加して良かったと素直に喜べました(でも、10月の残暑は正直、コワカッタ)。

投稿 二本松訓練所便り

JOCV 平成 16 年度 3 次隊候補生 観光業 松永 恵

(配属予定先: 観光国立公園野生生物省 観光局)

ここ、二本松訓練所に入所してから、すでに 1 ヶ月半経ってしまったのだが、日を追うごとにどんどん時間が経つのが早く感じられる。これまでを振り返ってみて、一言でいうと、「思ったより楽しいが、思ったより大変!」という感じだろうか。

最初に、訓練所に到着した時には、立派な講堂や体育館、大浴場、かなりお洒落なロビー、小さいが快適な個室に感動し、最初の数日ははしゃいでいた。特筆すべきは、関東では経験できない二本松の大雪だ。雪合戦、かまくら作りと、思う存分楽しめた。



▲ 訓練所内に作ったかまくらの前で

だが、英語の語学訓練が始まり、当たり前のように毎週プレゼンテーションをするようになると、これには正直、かなり苦勞した。というが、今でも苦勞している。私は今まで留学経験も、英語を人前で話すような仕事経験もなかった。その上、今までの職歴は旅行会社だけだったので、観光開発・促進などについて、人に説明出来るような知識が無く、それを本で勉強してから内容を考え、英語にするというふうで、莫大な時間を費やしてしまっている。プレゼンの前日はかなり寝不足...という感じなのだが、他の候補生も、こんな調子の人が多いようだ。だがこれも、きっと自分自身の糧となり、役に立つのだろう!

ここでは語学訓練以外に、毎週いくつものイベントがあり、非常に盛りだくさんで、よく考えてスケジュールを組んでくれているのだな、と感心する。「異文化について」や、「海外ならではの危険性」など、毎回専門家を講師として招いての講義もたくさんある。「OV day」には、帰国したばかりの隊員の方を大勢招いて話し合うことができ、非常

に有益だった。「所外活動」では酪農のお手伝いを 3 日間させていただいた。都会育ちの私には貴重な経験となり、とても楽しかった。平日は外出しないので、外へ出て働くことが、いい気分転換にもなった。

とはいっても、週末は近くの岳温泉へ飲みに行くことが多い。メンバーは、その時により、マラウイ候補生、生活班、語学クラスなどだ。これは、知らず知らずのうちに溜まったストレスのいい解消法だろう。私は、元々、人としゃべるのが大好きなので、経歴・出身そしてこれからの目的も様々な人達と話をするのが、とても楽しい。



▲ 岳温泉でマラウイ候補生と懇親会

しかし、あと 1ヶ月もすれば、文字通り世界中にばらばらになってしまうのだ。10人のマラウイ候補生を除いては。私たちマラウイの出発予定日は、4月4日だ。それが発表された時は、どういう訳か怖いような気持ちになり、落ち込んでしまった。でも日が経つにつれ、開き直った気にもなってきた。体調を壊さない程度にやれることだけやって、元気に出発することを、今の目的としようと思う。

マラウイ大使館からのお知らせ

駐日マラウイ大使館顧問の特定非営利活動法人 東京経営診断士会がマラウイの小学校教育拡充のための支援基金を創設されましたので、ご案内します。

マラウイ共和国の子供に学校を、そして未来に夢を

特定非営利活動法人 東京経営診断士会 (理事長：藤森謙三氏) は国際貢献の一環として、今日なお、財政難から小学校児童の教育環境が劣悪なマラウイ共和国に対して「子供に学校を、そして未来に夢を」を合い言葉に、小学校教育拡充のための支援カンパ活動を開始しました。

マラウイの小学校教育の窮状は目に余るものがあり、教科書も 5人に 1冊あれば比較的恵まれているといわれるほどで、ノートや筆記具もない不自由を強いられていま

す。また、加えて校舎の絶対数も不足するなど、政府の努力にもかかわらず依然として劣悪な教育環境に喘いでおります。

同会では、支援基金一口 1,000円以上または教材(ノート、消ゴム、鉛筆など)の支援カンパを募り、日本の心を支援基金に託して、全国的に支援カンパ活動を展開しております。口数の多少にかかわらず、多くの方々のカンパをお願いします。

振込先

郵便振替 00190-4-278723
加入者名 東京経営診断士会
マラウイ小学校支援基金
(振込手数料は同会負担)

第 1 次締切 2005 年 6 月 30 日

お問い合わせ

特定非営利活動法人 東京経営診断士会
マラウイ共和国小学校教育拡充支援基金
実行委員会
Tel: 03-3452-6771
E-mail: fujimori@mita-flag.com



▲ 支援基金のパンフレット



▲ ンチェウ州ワンサンベ小学校の生徒達 (左記パンフレットから)

《日本マラウイ協会》平成 16 年 9 月～平成 17 年 2 月活動内容

- 1 [9月22日] 機関紙 KWACHA 第 32 号発行
- 2 [10月2・3日] 国際協力フェスティバル 2004 へ出展 (2面の記事参照)
- 3 [10月27日] クロスロード岩下編集長マラウイ取材出張に伴う事前取材対応

- 4 [11月17日] クロスロード岩下編集長マラウイ取材出張報告会
- 5 [12月15日] 納会
- 6 [1～2月] ホームページのフォトギャラリー更新

マラウイ今昔

「マンゴチ橋」はマラウイ湖南端の街マンゴチと対岸のンタガルカの間を流れるシレ川に架かる橋です。その今昔を写真で比較します。新しいマンゴチ橋は日本政府の援助により 2002 年 1 月 23 日に完成しました。



▲ 古いマンゴチ橋 - 1977 年 (撮影: 鶴田伸介)



▲ 新しいマンゴチ橋 - 2003 年 (撮影: 数原孝憲)



日本マラウイ協会情報



■ 第 23 回通常総会のご案内

日本マラウイ協会は 5 月に第 23 回通常総会を別紙のとおり開催します。会員の皆様は同封の葉書にて出欠をご連絡下さい。

■ クロスロードにマラウイ特集

青年海外協力隊事務局発行クロスロード誌の平成 17 年 1 月号と 2 月号にマラウイ特集が掲載されています。それぞれ 11 ページづつの大特集で、同誌の岩下編集長による現地取材記事とカラー写真が多く掲載されています。2 月号には当会の活動も紹介されています。当会は昨年 10 月 27 日、同編集長のマラウイ出張前に事前取材に協力しました。是非、ご覧ください。同誌の購入については、下記までお申し込みください。

(社) 協力隊を育てる会 クロスロード係

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘 7 番 1 号 日本青年館内
TEL: 03-3402-2153
FAX: 03-3402-3263
E-mail: order@sojocv.or.jp

定期購読料	1 年間	5,000 円 (送料込み)
1 冊 価 格		470 円 (送料込み)

■ 駐日マラウイ大使の 2 冊目の著書

前号で駐日マラウイ大使の著書「CROSSING CULTURAL FRONTIERS: Analysis and Solutions to Poverty Reduction-Japanese Parallels」をご紹介しましたが、このほど 2 冊目の著書が出版されました。

書 名	FAITH BASED DIPLOMACY - The Challenge to Development
著 者	James John Chikago (駐日マラウイ大使)
出版社	Authorhouse
i S B N	1420825585

この本では、開発途上国が経済成長と開発を促進する努力において直面している課題について論議しています。全 10 章のうち、第 7 章では日本の TICAD プロセスについて述べられています。Authorhouse のホームページ <http://www.authorhouse.com/bookstore/ItemDetail.aspx?bookid=2842> にこの本の概要が紹介されています。

【購入方法】

Amazon.co.jp のホームページから申し込みます。
<http://www.amazon.co.jp/> の左端のサーチ欄に書名の「FAITH BASED DIPLOMACY-The Challenge to Development」を入力して検索、現れたページから書名をクリックして指示に従ってください。

価格	通常カバー版	2682 円 (税込)
	ハードカバー版	5160 円 (税込)

東京・新宿の紀伊国屋書店でも購入できます。

■ KWACHA バックナンバー

当会は今年 2 月 26 日に創立 22 周年を迎えましたが、創立時の機関紙 KWACHA 第 1 号から第 33 号 (今号) までの全バックナンバーを PDF ファイル化し、当会ホームページへ掲載しています。是非ご覧ください。

URL: <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm> から「日本語」を選択、左端のメニューから「機関紙 KWACHA」をクリックすると、右ページに号数一覧が出てきますので、希望の号数をクリックしてください。

■ 日本マラウイ協会の刊行物

	本 名	サイズ	ページ数	価格 / 一部	送料
1	チェワ語辞典 統合改訂版 (2000 年 7 月発行)	B5	186	1,500 円	290 円
2	マラウイ旅行ガイド 新訂第 2 版 (97 年 7 月発行)「アフリカの暖かき心、湖とサバンナの大地へ」	B5	108	1,200 円	210 円
3	国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第 2 版 (94 年 7 月発行)	A4	40	1,000 円	210 円

送料は「冊子小包郵便物」扱いで表示しています。複数種を 1 冊づつご注文の場合は次のとおりです。

1	+	2	+	=	340 円	
2	+	3	+	=	290 円	
1	+	3	+	=	340 円	
1	+	2	+	3	=	340 円

各書ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の郵便振替口座または銀行口座宛に、代金および送料をお送りください。その際、郵便振替の場合は振替用紙の通信欄に必ず「xxxx xx 冊希望」と明記してください。銀行振込の場合は事前に必ず E-mail、あるいは電話/FAX で「xxxx xx 冊希望」と当会宛連絡してください。

■ ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、下記当協会宛へご遠慮なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

■ 日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、毎月第 3 水曜日 18:30 ~ に、東京都内 (通常は広尾青年海外協力隊訓練所 1F 研修室 2) で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは当協会までお問い合わせください。

■ 日本マラウイ協会 入会方法

ご連絡いただければ入会申込書をお送りしますので、各項記入の上ご返送ください。E-Mail で入会希望の旨を連絡くださっても構いません。また、入会金と年会費の合計 (個人正会員の場合 1,000 円 + 3,000 円 = 4,000 円) を下記の銀行口座または郵便振替口座へお送りください。(郵便振替口座が安く便利です)

〒150-0012

東京都渋谷区広尾 4-2-24

青年海外協力協会気付

日本マラウイ協会

TEL: 03-3447-2921

FAX: 03-5798-4269

E-mail: japan-malawi@mc.newweb.ne.jp

UFJ 銀行

東恵比寿支店 普通口座 255739

口座名義人 日本マラウイ協会事務局 貝塚光宗

郵便振替

00190 - 7 - 13125

加入者名 日本マラウイ協会

また、協会規約その他についても上記宛お問い合わせください。